

3 理科的環境整備

(1) わくわく科学ランドの取組

児童が日頃から身近な自然や生き物、科学への関心を高めることができるように、児童昇降口の近くに「わくわく科学ランド」を設けている。

「わくわく科学ランド」には、一つ目に地域の川などに生息する魚やメダカ、サワガニなどの生き物を飼育できるコーナーがある。このコーナーの生き物は、児童、地域の方、職員が地域の川などから捕ってきたものである。児童は、生き物の様子を毎日のように観察し、2年生が世話係になって、餌やりや水換え、掃除などに取り組んでいる。これらの生き物のお世話を通して、それぞれの生き物がどんな環境で生息し、どんな食べ物が必要なのかを調べるなど、生き物に対する関心や愛情が高まってきている。また、その時期にしか見られないホウネンエビやカブトエビなども飼育することで、児童は自分たちの身の回りに、いろいろな生き物が生息していることに気付き、観察する目が育ってきている。

二つ目に、校庭や地域で見つけた昆虫や草花を紹介している。できるだけ児童が「わくわく科学ランド」に足を運ぶようにするために、展示するだけでなく、昆虫クイズや草花クイズを掲示し、クイズの正解者を発表している。

三つ目に、掲示スペースを確保している。ここには、縦割り班（学年混合）で1年間を通して観察を続けていく「みんなの木」を掲示している。5月に縦割り班の各グループで校庭にある1本の木を決め、観察を行った。四季ごとにどのように変化していくのかを観察しながら記録していつている。また、月食や「はやぶさ2」の打ち上げなど科学関連のニュースも随時掲示するようにしている。

四つ目に、科学に関する本や顕微鏡を常備し、いつでも児童が自由に見ることができるようにしている。休み時間になると自分の興味のある本を見たり、顕微鏡で微生物を観察したりしている児童の姿をよく見かける。

児童は、毎日「わくわく科学ランド」に行くことを楽しみにしている。これからも、「わくわく科学ランド」を充実させることで、日頃から児童の科学に対する興味・関心を高めていきたい。

(2) 各学級花壇と学校の花壇

児童が日常的に身の回りの植物や自然とのふれ合いを通して、自然愛護や生命尊重の心情を育んだり、環境保全の大切さについての理解を深めたりできるよう学級花壇や学校花壇、栽培園、観察池等を設けて計画的に運営している。全学級の花壇を教室の近くに



生き物を飼育できるコーナー



サワガニと触れ合う児童



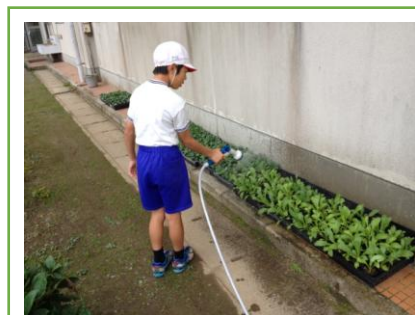
理科クイズに挑戦する児童



学級花壇 夏の装い

確保し、夏秋期（6月～11月）冬春期（12月～5月）と季節に合わせた花の栽培を行っている。そのために、植えかえ時期には、各学級の児童全員で耕地や堆肥入れなどの花壇の準備から苗植えまでの活動を行う。次の植えかえまでの約半年にわたって、水かけや草取りなどの作業を継続的に行い、学級の花壇に季節の潤いを感じさせる花が咲き続けるようにしている。

「モーニングガーデン」「フラワーロード」などと名付けた学校園を設けて、学校を訪れる人々や学校周辺を行き来される地域の人々の目を和ませ心を癒せるように花を栽培している。これらの学校園の栽培は、環境栽培委員会の児童が中心となって行っている。花壇を賑わわせている花の大半は、児童が前年度の花から採取した種を、今季に種まきして育てていった苗を定植したものである。



育てている苗に水かけをしている環境委員会の児童



1年生の学級農園でのサツマイモ栽培

(3) 各学級の栽培園

校地内に、各学年での教科等の学習内容に関連した植物や作物等を栽培するための学級農園を設けている。3年生からの理科での実験観察用に使う植物教材は、1人1実験ができるように十分な量の植物を栽培し授業で活用できている。

1年	サツマイモ（生活科）
2年	ナス・ピーマン・ダイコン他（生活科）
3年	ヒマワリ・ホウセンカ（理科）
4年	パプリカ・トマト他（総合）
5年	インゲン・アサガオ（理科）
6年	ホウセンカ・ジャガイモ（理科）

(4) 生き物との触れ合いの場

校庭には、ケヤキ、イチョウ、サクラ、カエデなど100本近くの樹木があり、その落ち葉を集め腐葉土を作っている。夏になると児童はたくさんのカブトムシの幼虫をその腐葉土の中から見つけ出し、飼育している。校内にはメダカ池、コいの池、ふるさと池の3つの池があり、コイ、オイカワ、メダカ、カマツカなどを放して飼っており、ミミズを捕ってきて魚に与えたり、稚魚が生まれたときは観察したりするなど、生き物を身近に感じることができる環境にある。



腐葉土の中の幼虫を探す児童

(5) 教室設営の工夫

理科学習での学びの足跡が分かり、学んだことを生かして考えることができるように教室設営を工夫している。また、生き物を扱う学習の際には、教室や廊下、ベランダ等の身近な所で生き物を育て、日常的に生き物とかわかれるようにしている。ルーペや顕微鏡等も児童が調べてみたいと思ったときにすぐに活用できるよう、その単元の学習が終わるまでは教室に置いておき、自由に使えるようにしている。また、授業で製作したおもちゃの展示もその都度行っている。